

安浦中学校防災集会～命を守るための学びを止めてはならない～

0. 雨音の中で開かれた防災集会

今日 7 月 6 日も外は雨が降り続いています。先日の大雨では臨時休業や期末試験の延期だけでなく、国道 185 号線の事前通行止めや、安浦町赤向坂での巨大な落石など、私たちのすぐ身近で崩落の危険や被害が現実のものとなりました。こうした緊迫感のある雨の音を耳にしながら、本校では「命を守るための学びを止めてはならない。」と題した防災集会を開催しました。集会には、日頃から本校を支えてくださっているコミュニティ・スクールの委員の皆様もお迎えし、「地域とともに学ぶ防災」の第一歩を踏み出しました。

天災はある日突然やってきます。校長先生からは、「一步間違えれば命が奪われていたかもしれない」という危機感を持ち、被害が出る前に危険を予測して先手を打つこと、そして『自分の命を自分で守り、みんなの命を地域とともに守る』力を身につけてほしい」とメッセージを生徒たちに送りました。



1. あの日の教訓と、歴史から学ぶ避難の知恵

続いて、安浦小学校元 PTA 会長であり「安浦新ええとこ祭り」の実行委員長を務められる上田靖さんを講師にお迎えし、平成30年 7 月西日本豪雨の当時の貴重なお話を伺いました。「大規模災害における『命を守ること』～自助の先にある共助～」と題された講演では、当時の安浦地区で大雨により流木や車が流され、それが川をせき止めて中畑川が氾濫したこと、そして上田さんご自身の家も胸の高さまで床上浸水したという、言葉にできないほど壮絶な体験が語られました。



近年は気候変動により気象状況が激甚化しており、山の地盤も弱くなっています。そうした中で上田さんは、地域のつながり（共助）を普段からも作っておくことが「助けて」と言える第一歩になると話されました。

上田さんは生徒たちに向けて、「中学生は守られるだけの『助けられる側』ではなく、周りを支える『助ける側』になれる」と熱く語られ、命のタイムリミットやハザードマップを知ることの大切さを訴えられました。



2. 「助ける側」になるための、我が家の決意

災害が起きたとき、安浦中学校は地域の方々をも守る「避難所」になります。

かつての西日本豪雨の際にも、避難所で当時の中学生や高校生がボランティアとして大活躍し、復興の大きな力となりました。最後に命を救うのは、生徒一人ひとりの「自分で自分の命を守り、周りを助ける」という決意です。

しかし、どれだけ決意があっても、実際の避難行動に繋がらなければ意味がありません。保護者の皆様、地域の皆様、ぜひこの機会にご家庭で具体的な避難について話し合ってください。



「うちの避難場所は?」「どのタイミングで逃げる?」「どのルートで逃げる?」

3. いつ来るか分からない災害に備えて～生徒会による「防災バッグ紹介劇」～

本日の集会では、生徒会による「防災バッグの紹介劇」が行われました。劇中では、ステージ中央に大きな防災バッグが登場! 係の生徒がバッグから「飲料水」や「非常食」を次々と取り出すリアルな演出を交えながら、災害時に本当に必要なグッズについて分かりやすく解説してくれました。「目安は1日3食分を3日分! 水だけで作れるカレーや乾パン、保存期間の長いお菓子がおすすめです!」「救急セットがあれば、ケガで困っている周りの人を助けることができるかもしれません」「連絡手段を絶やさないために、モバイルバッテリーは必須です!」生徒会のメンバーは、それぞれのグッズの重要性だけでなく、「避難時にすぐ持ち出せるよう、バッグは押し入れの奥ではなく玄関や寝室に置くこと」など、今日から実践できる具体的なアドバイスも伝えてくれました。



予測困難な時代を生き抜くために、今回の学びを「大変だった出来事」で終わらせず、今日からの具体的な行動へとつなげていきましょう。上田様、そしてコミュニティ・スクールの皆様、本日は生徒たちのために本当にありがとうございました。